教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 社会福祉学科　　資格： 教授　　氏名： 與那嶺　司

研究分野	研究内容のキーワード
障害者福祉、ソーシャルワーク	知的障害者の意思決定支援、相談支援専門員による効果的な支援
学位	**最終学歴**
博士（学術）大阪市立大学 M.S.W.(Master of Social Work) West Virginia University 学士(社会福祉学)　大阪府立大学	大阪市立大学大学院生活科学研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.アルバイトやボランティア活動を通しての実践現場の提供	2006年4月～2023年3月	前任校および前々任校における社会福祉関係の授業において、座学での学びをより具体的に理解してもらい、また興味関心を持ってもらうために、福祉関係のアルバイトやボランティア活動を積極的に紹介している。また、そこでは単に活動を紹介するだけではなく、事前相談および事後相談にも対応し、授業においての学びを深める効果を期待している。
2.障害のある当事者とともに行うゼミ合宿	2006年4月～2020年3月	前任校および前々任校における3年生ゼミにおいて、初めて出会う受講生どうしの交流を深め、また互いに学び合う関係づくりを促すとともに、障害のある当事者と一緒に宿泊を含めた合宿を行うことにより、体験的に、また共感的に障害のある人が抱える生活問題の一端を理解することができる。そして、その経験を通して、ゼミにおいて学ぶ社会福祉という制度や援助方法等に対する理解を深めることを目的としている。
2 作成した教科書、教材		
1.『新版 ソーシャルワークの基盤と専門職（基礎編・専門編）』（共著：株式会社みらい）	2021年3月20日	本書は、社会福祉士養成課程における科目「ソーシャルワークの基盤と専門職」に対応したテキストである。ここでは、ソーシャルワーカーの具体的なイメージとその社会的必要性を理解するために、社会福祉士や精神保健福祉士の成り立ちと専門性、ソーシャルワークの定義と構成要素、ソーシャルワークの倫理、そしてジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワークの意義と内容等について説明している。 執筆担当箇所：「現代社会におけるソーシャルワークの意味と専門職」（pp.15-42） 著者：相澤譲治、與那嶺司、滝口真、安井理夫、岡崎幸友、河村ちひろ他6名
2.『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』（共著：中央法規出版出版）	2021年2月1日	本書は、精神保健福祉士養成課程の科目「ソーシャルワーク実習指導」および「ソーシャルワーク実習」に対応したテキストである。ここでは、ソーシャルワーク実習の展開に沿って章立てがなされ、ソーシャルワーク実習の目的、実習先に向けた準備、実習先決定後の準備、実習中の学習、実習後の学習、そして実習の実際について解説している。 執筆担当箇所：「情報収集の方法」（pp.58-63） 著者：伊藤新一郎、植田嘉好子、倉持香苗、潮谷恵美、鈴木孝典、與那嶺司他12名
3.『常を拓く知 古典を読む1 やさしさ』（共著：世界思想社）	2017年11月15日	本書では、複数の学問分野における古典を通して、＜やさしさ＞の意味を、宗教学、哲学、アメリカ文学、日本近代文学、そして障害者福祉の観点から多角的に解説している。またここでは、対話形式、エッセイ（論考）、ブックガイドという複数の形式を活用し、＜やさしさ＞の意味を紐解いている。 執筆担当箇所：「『やさしさ』への違和感」（pp.92-110） 著者：景山佳代子、飯謙、高橋雅人、三杉圭子、笹尾

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
4.日常を拓く知6　支える』（共著：世界思想社）	2016年1月10日	佳代、與那嶺司 本著では、日常生活において無意識のうちに行っている＜支える＞という行為を、社会福祉学、国際関係論、コミュニケーション論、アメリカ文学、日本語教育学、メディア論といった複数の学問分野から多角的に分析している。また、対話形式、エッセイ（論考）、ブックガイドという複数のアプローチを活用し、＜支える＞こととそのあり方について考察している。 担当個所：「はじめに」（p.iii-v）、「きれいではない支える現場：自立と摩擦がつむぐ豊かな人間関係」（pp.42-63）および「社会福祉学から：他者を支えずにいられないのはなぜか？」（pp.64-77） 著者：三杉圭子、景山佳代子、戸江哲理、建石始、北川将之、與那嶺司（編者）
5.『事例中心で学ぶ相談援助演習』（共著：株式会社みらい）	2009年12月15日	本著は、社会福祉士養成課程に対応した「相談援助演習」のテキストとして作成された。ここでは、相談援助の意義やさまざまな理論、コミュニケーションに関する多彩なロールプレイ、そして、福祉の現場から集めた豊富な事例の3つのステップを経ることで丁寧に学習できるように構成されている。 執筆担当個所：「講義　相談援助事例演習の方法」（pp.54-60） 著者：石川久仁子、大野まどか、岡本和久、奥西栄介、木村容子、與那嶺司他13人
6.『福祉実習に行くあなたのための準備本』（共著：相川書房）	2006年3月25日	社会福祉援助技術現場実習における事前指導に的を絞ったテキストとして作成された。実習事前指導を、オリエンテーション、実習テーマの発見、コンセプトメイキング、プランニング、プリパレーションの区分を分け、これまであまり実習テキストに見られなかった、マナー、服装、文章の書き方といった基本的なスキルも指導内容に含めた。 執筆担当個所：「福祉実習の形態および期間」（pp.8-9）、「福祉実習のスケジュール」（pp.10-12）、「どのような実習先があるのか」（pp.13-26）、「実習計画書」（pp.47-52）、「個人票」（pp.53-58）、「実習記録」（pp.75-80）、「実習記録の書き方（1）」（pp.81-86）および「実習記録の書き方（2）」（pp.87-92） 著者：栗山直子、與那嶺司
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任係長級研修）「障害のある人との関わり方」	2024年8月27日	大阪支所に所属する新任係長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
2.（研修会）産経新聞厚生文化事業団・公開スーパービジョン	2024年8月22日	産経新聞厚生文化事業団の相談支援くすのきが主催し、当該法人全体に対して、相談事例に関するスーパービジョンを行った。また、そのスーパービジョンに加えて、ソーシャルワークにおける援助の価値・原則等を確認した。
3.（基調講演）第14回 ビルメン社会貢献セミナー「あかるく、活気のある職場をめざして」	2024年5月13日	一般社団法人大阪ビルメンテナンス協会が主催し、大阪府、大阪市等が後援するセミナーにおいて、障害の理解及び合理的配慮等について基礎的な知識や最新の和ぢを提供する基調講演を担当した。
4.（研修会）令和5年度 大阪市障がい者相談支援研修センターセミナー「意思決定支援における基本的な考え方」	2024年3月11日	大阪市の相談支援事業所に所属する相談支援専門員及び関係障害福祉職員に対して、障害のある人の意思決定支援について講義を行った。
5.（研修会）令和5年度　神戸市・神戸市社会福祉協議会主催障害者施設職員スキルアップ研修「障害者施設における福祉援助職の『可能性』を考える」	2024年2月13日～2024年2月14日	平成5年度開始された神戸市・神戸市社会福祉協議会主催の障害者施設職員スキルアップ研修における講師を務めた。
6.（研修会）令和5年度　神戸市社会福祉協議会・安心	2024年2月8日	神戸市社会福祉協議会の職員に対して、権利擁護の一

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
サポートセンター　権利擁護研修（基礎編）「権利擁護と意思決定支援」		方法としての意思決定支援について講義を行った。
7.（演習）令和 5年度 大阪府人権総合講座(後期)「事例検討I」	2024年1月22日	一般財団法人大阪人権協会が主催する人権講座において、架空事例をもとに支援方法等について演習を行う事例検討の講師を担った。
8.（オンデマンド研修会）令和5年度　大阪市社会福祉施設職員人権研修「虐待と意思決定支援：虐待を防ぐ取り組みとしての意思決定支援 」	2023年12月1日～2023年12月31日	毎年実施している大阪市社会福祉職員に対する人権研修として、権利擁護の一方法としての意思決定支援についてのオンデマンド講義を提供した。
9.（研修会）大阪市社会福祉研修・情報センター研修　令和5年　障がい福祉関係研修（基礎研修）「障がいのある人の自己決定とその支援」	2023年11月27日	大阪市の福祉関係者に対して意思決定支援の基本的な考え方に関する研修会を行い、その講師を務めた。
10.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（統括官マネジメント研修）「障害のある人との関わり方」	2023年11月17日	大阪支所に所属する統括マネジメントレベルの税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
11.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長級研修）「障害のある人との関わり方」	2023年9月29日	大阪支所に所属する新任課長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
12.（研修会）産経新聞厚生文化事業団・公開スーパービジョン	2023年9月11日	産経新聞厚生文化事業団の相談支援くすのきが主催し、当該法人全体に対して、相談事例に関するスーパービジョンを行った。また、そのスーパービジョンに加えて、ソーシャルワークにおける援助の価値・原則等を確認した。
13.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任係長級研修）「障害のある人との関わり方」	2023年8月30日	大阪支所に所属する新任係長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
14.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長補佐研修）「障害のある人との関わり方」	2023年8月2日	大阪支所に所属する新任課長補佐レベルの税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
15.（コメンテーター）社会福祉法人英芳会・実践報告会	2023年3月28日	社会福祉法人英芳会における法人内実践報告会において、スーパーバイザーとして報告に対するアドバイスを行なった。
16.（研修会）湖北圏域しょうがい福祉サービス事業所等研修会「知的障害のある人の意思決定支援」	2023年3月2日	長浜米原しょうがい児者基幹相談調整センター主催の湖北圏域しょうがい福祉サービス事業所等への意思決定支援に関する研修会講師として参加した。
17.（研修会）令和4年度　神戸市・神戸市社会福祉協議会主催障害者施設職員スキルアップ研修「障害者施設における福祉援助職の『可能性』を考える」	2023年2月20日～2023年2月21日	平成4年度開始された神戸市・神戸市社会福祉協議会主催の障害者施設職員スキルアップ研修における講師を務めた。
18.（シンポジスト）日本学術振興会二国間交流事業「日本と台湾における意思決定支援の現状と課題に関するセミナー」	2023年2月11日～2023年2月12日	日本学術振興会二国間交流事業として台湾大学で開催された意思決定に関する共同シンポジウムにおいてシンポジストの一人として登壇した。
19.（演習）令和 4年度 大阪府人権総合講座(後期)「事例検討I」	2023年1月12日	一般財団法人大阪人権協会が主催する人権講座において、架空事例をもとに支援方法等について演習を行う事例検討の講師を担った。
20.（研修会）大阪市社会福祉研修・情報センター研修　令和4年　障がい福祉関係研修（基礎研修）「障がいのある人の自己決定とその支援」	2022年12月15日	大阪市の福祉関係者に対して意思決定支援の基本的な考え方に関する研修会を行い、その講師を務めた。
21.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（統括官マネジメント研修）「障害のある人との関わり方」	2022年11月17日	大阪支所に所属する統括官マネジメント級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
22.（研修会）令和4年度社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・スキルアップ研修「障がいのある人の自己決定について」	2022年10月13日	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会主催の福祉施設・事業所の職員に対する自己決定支援の基本的な考え方に関する研修を行った。
23.（研修会）社会福祉法人英芳会・意思決定支援研修会	2022年10月6日	社会福祉法人英芳会による法人内研修において、意思決定支援に関する研修の講師を担った。
24.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長級研修）「障害のある人との関わり方」	2022年10月4日	大阪支所に所属する新任課長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
25.（講義）公益社団法人日本社会福祉士会e-learning講座「障がい者の意思決定支援」	2022年9月28日	公益社団法人日本社会福祉士会によるe-learning講座において、障害のある人への意思決定支援についてオンデマンド講義を実施した。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
26.（研修会）大阪市障がい者相談支援研修センターセミナー「相談支援におけるセルフケア」	2022年9月15日	大阪市障がい者相談支援研修センターが主催する相談支援専門員等に対するセルフケアについてのオンデマンド講義の講師を担った。
27.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任係長級研修）「障害のある人との関わり方」	2022年8月23日	大阪支所に所属する新任係長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
28.（研修会）公益社団法人日本社会福祉士会「2022スーパーバイザー・フォローアップ研修」	2022年8月7日	公益社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士に対するピアグループスーパービジョンの演習において、グループファシリテーターを担った。
29.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長補佐級研修）「障害のある人との関わり方」	2022年7月25日	大阪支所に所属する新任課長補佐級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
30.（研修会）あまがさき相談支援連絡会スキルアップ研修会「障害のある人の意思決定とその支援」	2022年1月20日	尼崎市障害者自立支援協議会に関係する支援者に対して、相談支援における意思決定支援に関する研修を行った。
31.（研修会）大阪市社会福祉研修・情報センター研修令和3年　障がい福祉関係研修（基礎研修）「障がいのある人の自己決定とその支援」	2021年12月2日	大阪市の福祉関係者に対して意思決定支援の基本的な考え方に関する研修会を行い、その講師を務めた。
32.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（課長相当職＋4年研修）「障害のある人との関わり方」	2021年11月18日	大阪支所に所属する課長相当職＋4年の経験を持つ税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
33.（研修会）令和3年度社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・スキルアップ研修「障がいのある人の自己決定について」	2021年10月13日	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会主催の福祉施設・事業所の職員に対する自己決定支援の基本的な考え方に関する研修を行った。
34.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長級研修）「障害のある人との関わり方」	2021年10月7日	大阪支所に所属する新任課長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
35.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任係長級研修）「障害のある人との関わり方」	2021年9月13日	大阪支所に所属する新任係長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
36.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長補佐級研修）「障害のある人との関わり方」	2021年9月6日	大阪支所に所属する新任課長補佐級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
37.（研修会）公益社団法人日本社会福祉士会「2020スーパーバイザー・フォローアップ研修」	2021年3月27日	公益社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士に対するピアグループスーパービジョンの演習において、グループファシリテーターを担った。
38.（研修会）豊中市障害相談支援ネットワーク“えん” 相談員のための勉強会「相談支援におけるセルフケア」	2021年3月11日	豊中市自立支援協議会に関係する支援者に対して、相談支援におけるセルフケアに関する研修を行った。
39.（研修会）一般社団法人大阪知的障害者福祉協会 令和2年度研修会「障害のある人の 自己決定とその支援」	2020年12月3日	一般社団法人大阪知的障害者福祉協会に加盟する施設・事業所職員に対して、自己決定支援の基本的な考え方に関する研修を行った。
40.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（新任課長級研修）「障害のある人との関わり方」	2020年11月19日	大阪支所に所属する新任課長級の税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
41.（研修会）大阪市社会福祉研修・情報センター研修令和2年　障がい福祉関係研修（基礎研修）「障がいのある人の自己決定とその支援」	2020年10月19日	大阪市の福祉関係者に対して意思決定支援の基本的な考え方に関する研修会を行い、その講師を務めた。
42.（研修会）令和２年度社会福祉法人徳島県社会福祉協議会・スキルアップ研修「障がいのある人の自己決定について」	2020年10月15日	社会福祉法人徳島県社会福祉協議会主催の福祉施設・事業所の職員に対する自己決定支援の基本的な考え方に関する研修を行った。
43.（研修会）財務省税関研修所大阪支所・障害者に係る研修（統括官マネジメント研修）「障害のある人との関わり方」	2020年10月1日	大阪支所に所属する統括マネジメントレベルの税関職員に対し、障害のある人への関わり方の基礎について講義を行った。
44.（研修会）令和元年度　神戸市・神戸市社会福祉協議会主催障害者施設職員スキルアップ研修「障害者施設における福祉援助職の『可能性』を考える」	2020年2月17日～2020年2月18日	平成元年度開始された神戸市・神戸市社会福祉協議会主催の障害者施設職員スキルアップ研修における講師を務めた。
45.（コメンテーター）社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団「令和元年実践事例報告会」	2020年2月8日	社会福祉法人産経新聞厚生文化事業団による事例報告会において、スーパーバイザーとして解説やコメントを行なった。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
46.（セミナー）貝塚市障害者自立支援協議会・権利擁護部会セミナー「高齢者や障がい者の自己決定とその支援：意思決定支援の基本的な考え方」	2019年12月12日	貝塚市障害者自立支援協議会主催の意思決定支援の基本的な考え方に関する研修会を行い、その講師を務めた。
47.（研修会）スーパーバイザー・フォローアップ研修「スーパービジョンの進め方」（大阪会場）	2019年6月30日	公益社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士に対するピアグループスーパービジョンの進め方について、大阪会場において講義を行った。
48.（研修会）スーパーバイザー・フォローアップ研修「スーパービジョンの進め方」（札幌会場）	2019年6月23日	公益社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士に対するピアグループスーパービジョンの進め方について、札幌会場において講義を行った。
49.（研修会）平成30年度権利擁護研修会「障害のある人の自己決定とその支援」	2019年3月13日	滋賀県社会福祉協議会が実施する権利擁護研修会の講師を務めた。
50.（研修会）社会福祉法人産経新聞厚生事業団・法人内研修会「知的障害のある人の自己決定とその支援」	2019年2月28日	障害福祉事業所等を運営する社会福祉法人産経新聞厚生事業団の法人内研修会の講師を務めた。
51.（研修会）2018年度スーパーバイザーフォローアップ研修会・東京会場	2019年1月26日	一般社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士に対するスーパービジョンフォローアップ研修会・東京会場における演習講師を務めた。
52.（講演）障害者差別解消法啓発フォーラム・地域でともに暮らす基調講演「やさしさへの違和感：どんな生命をも切り捨てない社会づくり」	2018年12月15日	大阪府高槻市による障害者差別解消法の啓発フォーラムにおいて、基調講演の講師を務めた。
53.（講義）みんなのかどま大学オープンキャンパス特別講義「あなたも含めて、誰もとりこぼさない地域づくり」	2018年11月18日	生涯学習を目的としたみんなのかどま大学が行うオープンキャンパス特別講義の講師を務めた。
54.（研修会）羽曳野市作業所・施設連絡協議会「意思決定支援とは：その基本的理解とそのむずかしさ」	2018年11月8日	羽曳野市作業所・施設連絡協議会が主催する障害のある人の意思決定支援に関する研修会の講師を務めた。
55.（パネルディスカッション）権利擁護たかつき10周年記念「出来てますか！現場での意思決定支援」	2018年10月27日	NPO法人権利擁護たかつきによる権利擁護に携わる専門職が「意思決定支援」を学ぶパネルディスカッションにおいて、パネリストを務めた。
56.（研修会）日本ソーシャルワーク教育学校連盟「コソ研」・熊本会場	2018年9月17日	日本ソーシャルワーク教育学校連盟によるコミュニティに強いソーシャルワーカー養成のための研修会における講師を務める。
57.（研修会）尼崎市福祉職グループ研修会「やさしさへの『違和感』」	2018年8月16日	尼崎市福祉職グループが自主的に行った福祉専門職が持つべきマインドに関する研修会の講師を務めた。
58.（研修会）厚生労働省・平成30年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会「グループワーク」	2018年8月9日	厚生労働省社会・援護局保護課保護係による平成30年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会のグループワークにおける講師を務めた。
59.（研修会）平成29年度認定社会福祉士特別研修認証・認定機構東京会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2018年3月3日	認定社会福祉士認証・認定機構による認定社会福祉士特別研修東京会場における演習ファシリテーター講師を務めた。
60.（研修会）社会福祉法人たけるの里「障害のある人の意思決定支援」研修会	2018年2月23日	障害者支援施設を運営する社会福祉法人たけるの里の法人研修会の講師を務める。
61.（研修会）平成29年度　神戸市・神戸市社会福祉協議会主催障害者施設職員スキルアップ研修「障害者施設における福祉援助職の『可能性』を考える」	2018年2月21日～2018年2月22日	平成29年度開始された神戸市・神戸市社会福祉協議会主催の障害者施設職員スキルアップ研修における講師を務めた。
62.（研修会）平成30年度　神戸市・神戸市社会福祉協議会主催障害者施設職員スキルアップ研修「障害者施設における福祉援助職の『可能性』を考える」	2018年2月5日～2018年2月6日	平成30年度開始された神戸市・神戸市社会福祉協議会主催の障害者施設職員スキルアップ研修における講師を務めた。
63.（研修会）権利擁護たかつき主催研修会「意思決定支援」最前線・「その支援、本当に利用者の自己決定を支えていますか？」	2018年2月3日	NPO法人権利擁護たかつきによる権利擁護に携わる専門職が「意思決定支援」を学ぶ研修会において研修講師を務めた。
64.（研修会）平成29年度認定社会福祉士特別研修第3大阪会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2018年1月27日～2018年3月18日	一般社団法人日本社会福祉士会による社会福祉士特別研修大阪会場における演習講師を務めた。
65.（講演会）平成29年度社会福祉法人南高愛隣会職員研修会・基調講演「意思決定支援とは何か：『悩み』続ける福祉専門職」	2017年10月26日	社会福祉法人南高愛隣会による職員全体研修会（400名）における基調講演・講師を務めた。
66.（研修会）平成29年度認定社会福祉士特別研修第3東京会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2017年10月14日～2017年12月24日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修第3東京会場における演習講師を務めた。
67.（研修会）厚生労働省・平成29年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会「グループワーク」	2017年8月3日	厚生労働省社会・援護局保護課保護係による平成29年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会のグループワークにおける講師を務めた。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
68.（研修会）厚生労働省・平成28年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会「グループワーク」	2017年7月14日	厚生労働省社会・援護局保護課保護係主催による平成28年度生活保護担当ケースワーカー全国研修会のグループワークにおける講師を務めた。
69.（研修会）平成29年度認定社会福祉士特別研修第1東京会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2017年6月10日～2017年8月5日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修第1東京会場における演習講師を務めた。
70.（研修会）平成28年度第2回やまゆり研修会「自己決定支援をどう考えるか：『悩み』続ける福祉援助実践」	2017年3月10日	年2回開催されているやまゆり知的障害児者生活サポート協会の研修会における講師を務めた。
71.（研修会）平成28年度寝屋川市精神障害者ホームヘルパースキルアップ研修会「障害のある人の自己決定とその支援：『悩み』続ける福祉援助実践」	2017年1月11日	寝屋川市が毎年開催している精神障害者ホームヘルパースキルアップ研修の講師を務めた。
72.（研修会）長田区グループホーム専門部会研修会「自己決定支援をどう考えるか：『悩み』続ける福祉援助実践」	2016年11月28日	神戸市長田区のグループホームの集まりである専門部会において研修会講師を務めた。
73.（講演会）平成28年度神戸女学院大学ボランティア・サポート講演会「『支わる』ことで生きていく：ボランティア活動から学んだ大切なこと」	2016年11月18日	神戸女学院大学主催のボランティア・サポート講演会における講師を務めた。
74.（研修会）平成28年度認定社会福祉士特別研修福岡会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2016年10月2日～2016年12月10日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修福岡会場の演習講師を務めた。
75.（研修会）平成28年度認定社会福祉士特別研修大阪会場「事例を活用したピア・スーパービジョン」	2016年9月17日～2016年11月19日	一般社団法人日本社会福祉士会主催の認定社会福祉士特別研修大阪会場における演習講師を務めた。
76.（講義）神戸女学院大学女性学インスティチュート・2016年連続セミナー「老いること、生きること（第1回）：障害のある人の自己決定とその支え方」	2016年5月4日	神戸女学院大学女性学インスティチュート主催の公開講座第1回における講師を務めた。
77.（研修会）NPO法人おおさか行動する障害者応援センター・新人職員研修会「応援センターの歴史とミッション」	2016年4月25日	NPO法人おおさか行動する障害者応援センターの新人職員研修会の講師を務めた。
78.（講演会）第12回山梨社会福祉実践学会・ソーシャルワーク実践研究発表会基調講演「自己決定支援をどう考えるか ：『悩み』続けるソーシャルワーク実践」	2015年11月8日	山梨社会福祉実践学会・ソーシャルワーク実践研究発表会における基調講演の講師を務めた。
79.（研修会）平成27年度認定社会福祉士特別研修（大阪会場・日本社会福祉士会）	2015年10月24日～2015年12月12日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修の演習講師を務めた。
80.（研修会）平成27年度一般社団法人兵庫県精神保健福祉士協会合同研修会「障害者総合支援法における障害者の権利とその実際」	2015年10月3日	一般社団法人兵庫県精神保健福祉士協会による年次合同研修会の研修講師を務めた。
81.（講義）平成27年度第28回社会福祉士国家試験・第18回精神保健福祉士国家試験受験対策web講座「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」	2015年9月15日	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会・精神保健福祉士養成校協会による社会福祉士国家試験対策web講座における「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」担当講師を務めた。
82.（研修会）NPO法人おおさか行動する障害者応援センター・新人職員研修会「応援センターの歴史とミッション」	2015年3月17日	NPO法人おおさか行動する障害者応援センターの新人職員研修会の講師を務めた。
83.（研修会）平成27年度認定社会福祉士特別研修（東京会場・日本社会福祉士会）	2015年1月10日～2015年2月28日	認定社会福祉士認証・認定機構による認定社会福祉士特別研修の協力講師を務めた。
84.（研修会）平成26年度認定社会福祉士特別研修（福岡会場・日本社会福祉士会）	2014年11月2日～2015年1月12日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修の協力講師を務めた。
85.（研修会）平成26年度認定社会福祉士特別研修（東京会場・日本社会福祉士会）	2014年9月27日～2014年9月28日	一般社団法人日本社会福祉士会による認定社会福祉士特別研修の協力講師を務めた。
86.（講義）平成26年度社会福祉士国家試験・第17回精神保健福祉士国家試験受験対策web講座「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」	2014年9月23日	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会による社会福祉士国家試験対策web講座における「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」担当講師を務めた。
87.（講義）平成25年度社会福祉主事資格認定講習会「社会福祉援助技術演習」	2014年1月11日～2014年2月20日	大阪府の社会福祉主事研修講座における「社会福祉援助技術演習」担当講師を務めた。
88.（講義）平成25年度社会福祉士国家試験受験対策講座・共通科目「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」	2013年12月7日	日本社会福祉士養成校協会主催による社会福祉士国家試験対策Ｗｅｂ講座における「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」担当講師を務めた。
89.（研修会）平成25年度認定社会福祉士特別研修	2013年10月5日～2013年11月30日	認定社会福祉士認定・認証機構による認定社会福祉士特別研修の協力講師を務めた。
90.（講演会）長崎純心大学医療・福祉連携センター講	2013年3月25日	判断能力に課題のある人の自己決定支援について、こ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
演会「自己決定が困難な人への自己決定支援に」		れまでの知的障害福祉分野における研究をもとに講演を行った。
91.（研修会）平成25年度Ｉｗａ会研修会「障害のある人の自己決定と相談支援」	2013年2月22日	神戸女学院大学文学部総合文化学科の同窓会組織であるIwa会主催の相談支援における自己決定の捉え方およびその支援について講演を行った。
92.（講義）平成23年度NPO法人おおさか行動する障害者応援センター研修会「『対等』の幻想：おおさか行動する障害者応援センター“再考”」講師	2012年3月28日	本研修会では、副代表を務める障害のある当事者団体の職員および利用者に対する研修の講師として参加した。
93.（シンポジウム）大阪市福祉職員連絡会「知的障害のある人の地域生活における相談支援の役割と課題：相談支援における「連携」のあり方を考える」	2012年3月8日	大阪市福祉専門職連絡会が開催したシンポジウムのコーディネーターとして参加した。
94.（講義）平成23年度社会福祉士国家試験受験対策講座　東京会場　専門科目「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」担当	2011年12月25日	日本社会福祉士養成校協会が開催した社会福祉士国家試験受験対策講座・東京会場（文京学院大学・本郷キャンパス）の講師を務めた。
95.（講義）平成23年度社会福祉士国家試験受験対策講座　大阪会場　専門科目「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」担当	2011年12月11日	日本社会福祉士養成校協会が開催した大阪会場（大阪人間科学大学）社会福祉士国家試験受験対策講座の講師を務めた。
96.（シンポジウム）薫英学園創立80周年・大阪人間科学大学開学10周年・大阪薫英女子短期大学開学45周年記念シンポジウム「人に想うやさしさを社会に役立つ力へ」シンポジスト	2011年6月11日	薫英学園創立80周年記念シンポジウムとして開催され、シンポジストとして参加した。
97.（講演）摂津市障害者地域自立支援協議会・相談支援部会講演会「摂津市の障害者相談支援事業に期待すること」講演者	2011年3月19日	摂津市障害者地域自立支援協議会・相談支援部会が開催した一般市民および障害福祉サービス事業者向けの講演会である。
98.（研修会）一般社団法人大阪知的障害福祉協会・平成22年度第3回研修会「知的障害のある人の自己決定」講師	2011年2月10日	本研修会では、知的障害のある人の自己決定およびその支援について、主に、平成21年に大阪府下の市入所施設等の支援職員に対して実施した調査結果をもとに、それらの現状と課題について説明を行った。
99.（研修会）2010年度大阪府母子自立支援員研修会「対人援助のあり方：信頼関係のためのバイスティックの7原則再考」講師	2010年6月5日	大阪母子自立支援員に対する研修会講師として参加した。
100.（講義）平成21年度重度訪問介護従業者養成研修講座（第1回）「重度訪問介護の制度とサービス」および「重度訪問介護利用者の理解」講師	2009年8月20日	大阪市の障害者自立生活センターが開催した重度訪問介護従事者研修会において講師として参加した。
101.（講演）堺女性大学教養講座「日本の障害福祉施策の現状と課題：障がいのある人の自己決定とどう支えるか」	2009年3月4日	堺市の一般女性向けの講座の講師として、これまでのわが国における障害福祉施策について、その現状と課題について解説した。
102.（講義）平成20年度重度訪問介護従業者養成研修講座（第2回）「重度訪問介護の制度とサービス」および「重度訪問介護利用者の理解」講師	2008年11月24日	大阪市の障害者自立生活センターが開催した重度訪問介護従事者研修会において講師として参加した。
103.（通訳）平成20年度財団法人大阪介護支援専門員協会自主事業「グローバルなマネジメントに挑む：課題解決技術を事例を通して学ぶ」通訳者	2008年11月18日～2008年11月19日	本研修会では、ソーシャルワークにおけるタスク（課題）中心方法（task-centered approach）について、アメリカ・バージニアコモンウェルス大学のナレッパ准教授が講義を行った。その際の通訳者として参加した。
104.（講義）平成20年度重度訪問介護従業者養成研修講座（第1回）「重度訪問介護の制度とサービス」および「重度訪問介護利用者の理解」講師	2008年8月16日	大阪市の障害者自立生活センターが開催した重度訪問介護従事者研修会において講師として参加した。
105.（講演）平成20年度おおさか行動する障害者応援センター合同職員研修会「福祉専門職の価値と倫理」講師	2008年8月5日	本研修では、副代表を務める障害者当事者団体の支援職員に対して、福祉関連専門職において必要な価値と倫理を、日本社会福祉士会の倫理綱領をもとに解説した。
106.講義）平成18年度大阪府健康福祉部精神保健福祉担当職員等新任転任研修「ソーシャルワーク記録の書き方」	2006年10月5日	大阪府の精神保健福祉新任および転任担当者に対するソーシャルワーク記録に関する研修を行った。
107.（講義）平成17年度障害者日常生活支援従事者研修講座「障害者（児）の理解」	2005年8月9日	NPO法人自立生活センターFlatきたが主催する、大阪市認定の障害者日常生活支援従事者養成の研修の一部を担当した。
108.（講演）平成16年度知的障害者（児）福祉施設新任研修・身体障害者（児）福祉施設新任職員研修「障	2004年8月9日	兵庫県社会福祉協議会が主催した知的・身体障害者（児）福祉施設新任職員を対象とした研修を行った。

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
害者（児）福祉の動向」		
109.（講演）ボランティア講座　第2回　「コミュニケーションとパートナーシップ」	2003年10月3日	備前市で活動するボランティアに対する講座の講師として、コミュニケーションとパートナーシップについて講義した。
110.（講演）平成14年度知的障害児・者福祉施設職員研修「契約と利用者支援：契約の意義をおさえる」	2003年2月24日	兵庫県社会福祉協議会が知的障害児・者施設の中堅職員を対象に開催した研修において、支援費制度導入に向けて「契約と利用者支援」について説明した。
111.（講演）「支援費制度について」	2003年2月7日	視覚障害のある市民に対して開催した赤穂市中央公民館主催の講座にて、講師として支援費制度の解説をおこなった。
112.（シンポジウム）地域フォーラム（PTCA活動支援事業）「保護者、学校、地域それぞれの教育力を活用した児童生徒の健全育成活動について」	2002年11月16日	「保護者、学校、地域それぞれの教育力を活用した児童生徒の健全育成活動の展開について」をテーマに、姫路地区育成会会長、同窓会会長、作業所所長、公民館館長、PTA会長等とともに、学識経験者としてシンポジウムに参加。
113.（講演）であいサロン～障害者の行き方を語り合う～　第1回「障害者と行き方を語ろう－障害とは？」	2002年11月8日	大阪・豊中市にあるNPO法人であいの郷市民委員会主催の「であいサロン」にて、10回シリーズのサロンにおいて、障害者生活に関して問題提起をおこなった。
114.（講義）介護福祉士国家試験対策準備講座　「障害者福祉論」・「社会福祉援助技術」	2002年10月19日	兵庫県介護福祉士会が主催する介護福祉士国家試験対策講座。
4 その他		
1.神戸女学院大学・第16回「学生が選んだベストティーチャー」選出	2022年6月	前任校において2021年に実施した「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科において総合評価がもっとも高い教員が第16回「学生が選んだベストティーチャー」として選ばれている。応募者は総合文化学科の教員として選出された。
2.神戸女学院大学・第11回「学生が選んだベストティーチャー」選出	2017年6月	前任校において2016年に実施した「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科において総合評価がもっとも高い教員が第9回「学生が選んだベストティーチャー」として選ばれている。応募者は総合文化学科の教員として選出された。
3.神戸女学院大学・第10回「学生が選んだベストティーチャー」選出	2016年6月	前任校において2015年に実施した「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科において総合評価がもっとも高い教員が第9回「学生が選んだベストティーチャー」として選ばれている。応募者は総合文化学科の教員として選出された。
4.神戸女学院大学・第9回「学生が選んだベストティーチャー」選出	2015年6月	前任校において2014年に実施した「学生による授業評価アンケート」の結果から、各学科において総合評価がもっとも高い教員が第9回「学生が選んだベストティーチャー」として選ばれている。応募者は総合文化学科の教員として選出された。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
1.精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会 ／実習分野修了	2013年3月29日	受講No.2013-30／一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
2.精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会 ／演習分野修了	2013年3月15日	受講No.2013-30／一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
3.精神保健福祉士実習・演習担当教員講習会 ／基礎分野修了	2013年2月8日	受講No.2013-30／一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会
2 特許等		
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
4 その他		

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.社会福祉を学ぶ50の扉「障害福祉」	共	2025年1月出版予定	法律文化社	本書は、社会福祉士養成課程テキストでありつつ、4ページで1項目、それを50項目で構成され、本科目「障害福祉」の基礎、最新情報、そして、さらに学びたいトピックが参照できる書籍。編著者として、本書に関わる。 担当個所：「意思決定支援」、コラム等 著者：與那嶺司・木下大生（編者）、岡崎幸友、山下幸子、藤井渉他10名
2.基礎ゼミ・社会福祉学	共	2023年11月10日	世界思想社	「生きづらさ」をテーマに、12のトピックを社会福祉学の視点で読み解く入門書であり、編著者として関わっている。子どもの権利や認知症といったオーソドックスなトピックから、性的マイノリティや難民問題といった新しいものまで、そこにある個人の生きづらさを、社会との関係から捉えている。 担当個所：「はじめに」（pp.i-vi）、「序章：『生きづらさ』とは何か？」（pp.1-10） 著者：與那嶺司（編者）、渡辺裕一、永野咲他10名。
3.『ケアマネジメント事典』	共	2021年11月20日	中央法規出版	本書は、ケアマネジメント学とその実践に関する基本的理念、歴史、内容などをまとめ 、ケアマネジメントの存在意義を問うとともに、ケアマネジメントの理念と実践の融合を図っている。社会福祉領域の研究者、第一線に身を投じる現場実践者にとって必要な知識等を解説している。 担当個所：「知的障害者」（pp.18-19）、「ケアマネジメントにおける意思決定支援」（pp. 238-239） 著者：白澤政和、小澤温、與那嶺司他60名。
4.『介護福祉用語辞典』	共	2021年6月20日	ミネルヴァ書房	本書は、介護福祉に関するタームを約1270語の基本用語をわかりやすく解説している。基本的な用語から最新の用語まで、幅広く記載している。 担当箇所：「障害者」「障害支援区分」「障害者基本計画」「障害者基本法」「障害者ケアガイドライン」「障害者計画」「障害者プラン」「利用者負担」（pp.144- 146、149、289） 著者：白澤政和、住居広士、與那嶺司他50名
5.『障害者福祉』	共	2021年4月20日	ミネルヴァ書房	本書は、社会福祉士および精神保健福祉士養成課程のテキストブックとして、障害者福祉における社会福祉士および精神保健福祉士の役割、障害者の生活実態、障害者福祉の理念と変遷、障害者に対する法制度、そして、障害者福祉における相談支援の実際等について解説している。 担当箇所：「はじめに」（i）、「障害者福祉の理念と変遷」（pp.76-99）および「知的障害者福祉法」（pp.137-141） 著者：與那嶺司（編者）、岩崎香、小澤温、相馬大祐、樽井康彦、関剛規、若林功、木下大生、木村美保他7名
6.『新版 ソーシャルワークの基盤と専門職（基礎編・専門編）』	共	2021年3月20日	株式会社みらい	本書は、社会福祉士養成課程における科目「ソーシャルワークの基盤と専門職」に対応したテキストである。ここでは、ソーシャルワーカーの具体的なイメージとその社会的必要性を理解するために、社会福祉士や精神保健福祉士の成り立ちと専門性、ソーシャルワークの定義と構成要素、ソーシャルワークの倫理、そしてジェネラリストの視点と総合的かつ包括的なソーシャルワークの意義と内容等について説明している。 担当箇所：「現代社会におけるソーシャルワークの意味と専門職」（pp.15-42） 著者：相澤譲治、與那嶺司、滝口真、安井理夫、岡崎幸友、河村ちひろ他6名
7.『障害者福祉』	共	2021年2月1日	中央法規出版	本書は、社会福祉士・精神保健福祉士養成課程の科目「障害者福祉」に対応したテキストである。障害概念の特性、障害者福祉の理念、障害者福祉の歴史、障害者に対する法制度、障害者と家族等の支援における関係機関と専門職の役割、障害者と家族等に対する支援の実際等について説明している。 担当箇所：「児童福祉法」（pp.133-138） 著者：伊藤葉子、岩崎香、岩田直子、植戸貴子、加瀬進、與那嶺司他26名
8.『ソーシャルワーク	共	2021年2月1	中央法規出版	本書は、社会福祉士養成課程の科目「ソーシャルワーク実習指導」

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
実習指導・ソーシャルワーク実習（社会専門）』		日		および「ソーシャルワーク実習」に対応したテキストである。ここでは、ソーシャルワーク実習の展開に沿って章立てがなされ、ソーシャルワーク実習の目的と構造、実習先に向けた準備、実習先決定後の準備、実習中の学習、実習後の学習、そして実習の実際について解説している。 担当箇所：「情報収集の方法」（pp.58-63） 著者：新井利民、伊藤新一郎、植田嘉好子、岡崎幸友、萩野基行、與那嶺司他24名
9.『ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習（精神専門）』		2021年2月1日	中央法規出版	本書は、精神保健福祉士養成課程の科目「ソーシャルワーク実習指導」「ソーシャルワーク実習」に対応したテキストである。ここでは、ソーシャルワーク実習の展開に沿って章立てがなされ、ソーシャルワーク実習の目的と構造、実習先に向けた準備、実習先決定後の準備、実習中の学習、実習後の学習、そして実習の実際について解説している。 担当箇所：「情報収集の方法」（pp.58-63） 著者：伊藤新一郎、植田嘉好子、倉持香苗、潮谷恵美、鈴木孝典、與那嶺司他12名
10.『常を拓く知 古典を読む1 やさしさ』		2017年11月15日	世界思想社	本書では、複数の学問分野における古典を通して、＜やさしさ＞の意味を、宗教学、哲学、アメリカ文学、日本近代文学、そして障害者福祉の観点から多角的に解説している。またここでは、対話形式、エッセイ（論考）、ブックガイドという複数の形式を活用し、＜やさしさ＞の意味を紐解いている。 担当箇所：「『やさしさ』への違和感」（pp.92-110） 著者：景山佳代子、飯謙、高橋雅人、三杉圭子、笹尾佳代、與那嶺司
11.『日常を拓く知6　支える』	共	2016年1月10日	世界思想社	本著では、日常生活において無意識のうちに行っている＜支える＞という行為を、社会福祉学、国際関係論、コミュニケーション論、アメリカ文学、日本語教育学、メディア論といった複数の学問分野から多角的に分析している。また、対話形式、エッセイ（論考）、ブックガイドという複数のアプローチを活用し、＜支える＞こととそのあり方について考察している。 担当個所：「はじめに」（p.iii-v）、「きれいではない支える現場：自立と摩擦がつむぐ豊かな人間関係」（pp.42-63）および「社会福祉学から：他者を支えずにいられないのはなぜか？」（pp.64-77） 著者：三杉圭子、景山佳代子、戸江哲理、建石始、北川将之、與那嶺司（編者）
12..『介護の基本／介護過程』	共	2014年1月20日	法律文化社	日本介護福祉士養成施設協会が編集した介護福祉士養成テキストである。本著は、隣接領域で用いられている諸理論等も含め、介護福祉における理論と実践を体系的に解説し、「考える介護福祉士」に必要な問題解決思考を培う内容構成となっている。 担当個所：「隣接領域で用いられている諸理論：社会福祉領域」（pp.164-175） 著者：川井太加子、野中ますみ、中村明美、高野恵子、田中由紀子、與那嶺司他5人
13.『ソーシャルワーク基本用語辞典』		2013年6月10日	川島書店	日本ソーシャルワーク学会が編集する専門用語辞典である。本学会において繰り返し改訂された本著では、ソーシャルワークに関連の深い福祉原理や制度用語、そして最新用語を中心に選定し、それぞれの基本用語について詳しい解説を加えている。また、本著では、編集ワーキンググループの一員として編集作業にも参加した。 担当個所：「ADA（障害のあるアメリカ人法）」（p.14）および「ジョブコーチ」（p.112） 著者：伊藤嘉余子、岩田泰夫、岩本裕子、植戸貴子、岡崎幸友、與那嶺司他125人
14.『発達障害児・者支援　教育・療法ハンドブック』	共	2012年10月10日	金子書房	日本発達障害学会が編集するハンドブック。本著では、発達障害に関する医療、福祉、労働、教育、そして心理の各領域の基本的な用語（福祉おいては、「グループワーク」「コミュニティケア」「ストレングス・ケアマネジメント」「パーソンセンタードプラン」「エンパワメント」など）について、その定義や概要、方法・内

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
				容、支援の実際・適用例をわかりやすく解説する。本著は、それらのことにより、発達障害の研究および実践に寄与することを目的としている。 執筆担当個所：「ストレングス・ケアマネジメント」（pp.168-169） 著者：小澤温、小林信篤、橋本卓也、森地徹、樽井康彦、與那嶺司他44人
15.『新たな社会福祉学の構築：白澤政和教授退職記念論集』	共	2011年3月15日	中央法規出版	本著は、白澤政和教授の大阪市立大学大学院退職記念論集として出版された。大阪市立大学教員および大学院修了生（現大学教員を含む）が、高齢者福祉や障害者福祉等に関連した論文を執筆している。37編の論文が所収されている。本著において、與那嶺は、編者として「はじめに」および「おわりに」についても執筆している。 担当個所：「はじめに」、「『共同決定』で紡ぐこれからの自己決定：知的障害のある人の自己決定をどう考えるか」（pp.365-373）および「おわりに」 著者：白澤政和、小澤温、山縣文治、畠中宗一、岡田進一、與那嶺司（編者）他31人
16.『事例中心で学ぶ相談援助演習』	共	2009年12月15日	株式会社みらい	本著は、社会福祉士養成課程に対応した「相談援助演習」のテキストとして作成された。ここでは、相談援助の意義やさまざまな理論、コミュニケーションに関する多彩なロールプレイ、そして、福祉の現場から集めた豊富な事例」の3つのステップを経ることで丁寧に学習できるように構成されている。 担当個所：「講義　相談援助事例演習の方法」（pp.54-60） 著者：石川久仁子、大野まどか、岡本和久、奥西栄介、木村容子、與那嶺司他13人
17.『ソーシャルワーク記録の研究と実際』	共	2006年4月5日	相川書房	ソーシャルワーク実践における記録の方法に関する著書である。本著は、理論編と実践編とに分かれる。社会福祉の記録、記録とは何か、記録作成のプロセス、記録の道具、記録をめぐる今日的課題、社会福祉教育と記録、実践における記録といったテーマに沿い、ソーシャルワーク実践の記録に関して包括的に解説している。 担当個所：「記録に用いられるツール」（pp.49－81） 著者：岩間文雄、岩間麻子、金田知子、與那嶺司、半羽利美佳他8人
18.『福祉実習に行くあなたのための準備本』	共	2006年3月25日	相川書房	社会福祉援助技術現場実習における事前指導に的を絞ったテキストとして作成された。実習事前指導を、オリエンテーション、実習テーマの発見、コンセプトメイキング、プランニング、プリパレーションの区分を分け、これまであまり実習テキストに見られなかった、マナー、服装、文章の書き方といった基本的なスキルも指導内容に含めた。 担当個所：「福祉実習の形態および期間」（pp.8-9）、「福祉実習のスケジュール」（pp.10-12）、「どのような実習先があるのか」（pp.13-26）、「実習計画書」（pp.47-52）、「個人票」（pp.53-58）、「実習記録」（pp.75-80）、「実習記録の書き方（1）」（pp.81-86）および「実習記録の書き方（2）」（pp.87-92） 著者：栗山直子、與那嶺司
19.『児童福祉論：実習中心の授業展開』	共	2006年3月15日	相川書房	本著は、児童福祉施設・保育所に実習に行く学生への実習指導を中心にした児童福祉に関するテキストである。具体的には、第1部の理論編と第2部の実習指導編に分かれる。 担当個所：「障害のある子どもとその家族に対する支援」（pp.94-106）、「児童福祉施設実習」（pp.109-119：共同執筆）および「施設実習」（pp.120-128：共同執筆） 著者：栗山昭子、栗山直子、與那嶺司、今西徹、一瀬貴子、衣笠葉子他4名
20.『暴力・虐待・ハラスメント：人はなぜ暴力をふるうのか』		2005年3月25日	ナカニシヤ出版	人が苦しみながらも暴力に走ってしまうのはなぜか。本著では、その心理的特徴やそれを促す現代社会の精神病理的特徴を明らかにし、被害者はもちろん、加害者に対する援助や対策を解説している。応募者は、きょうだい間の虐待について担当し、米国の文献をもとにその解説を行った。 担当箇所：「きょうだい間虐待」（pp.70-79）

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
21.『精神保健福祉援助演習-実践力を育てるワークブック-』	共	2004年3月15日	相川書房	著者：藤本修、荒賀文子、東牧子、亀岡智美、角典哲、與那嶺司他7人 精神保健福祉士（以降、PSW）養成課程に対応した科目「精神保健福祉援助演習」の教科書である。PSWとしてのアイデンティティ形成を目指したトレーニングセッションや、面接技法・援助計画の作成といった技能の修得を目指したセッション、事例を使ったグループ討論を中心とした演習課題などPSWとして必要となる具体的な援助技術の習得を目指した学習内容から構成されている。 担当箇所：「コラム：『障害』の個人モデルと社会モデル」（pp.6-7）、「自己覚知」（pp.24-30）、「サービスを評価する」（pp.73-83）、「ケアマネジメント」（事例を除く本文：pp.128-145）、「スーパービジョンを理解する」（事例を除く本文：pp.155-166） 著者：岩間文雄、金田知子、與那嶺司
2 学位論文				
1.「生活施設における知的障害のある人の自己決定とその関連要因に関する研究：担当支援職員に対する調査をもとに」（査読付）	単	2010年3月15日	大阪市立大学 博士（学術） 第5510号	本研究では、知的障害のある人の自己決定に関する国内外の文献をレビューし、（1）なぜ知的障害のある人の自己決定およびその尊重が難しいのか、（2）その自己決定に関連する要因はどのようなものであるのか、そして、（3）その自己決定に関する実証的研究に関連した提案を行うことを目的とした。その結果、知的障害のある人の自己決定とその困難性、そして、その自己決定に関連する個人要因および環境要因を具体的に明らかにし、知的障害のある人の自己決定を捉えるエコロジカルモデルを提案した。
3 学術論文				
1.「知的障害のある人への意思決定とその支援：『自己決定』から『意思決定』へ」	単	2020年12月15日	『ケアマネジメント学』日本ケアマネジメント学会第19号（pp.25-36）	本稿では、まず「自己決定」から「意思決定」への言葉の変化について考察した。次に、アメリカ合衆国の実証的研究におけるこれら2つの言葉の関係を概観し、そこでは意思決定が自己決定という概念に含まれる一つの要素として位置付けられる傾向があることを示した。最後に、それまでの議論を踏まえ、ケアマネジメントにおいて求められる意思決定支援のポイントを考察し提示した。
2.「知的障害のある人の自己決定とその支援」	単	2018年3月10日	『介護福祉学』日本介護福祉学会第25巻2号（pp.72-81）	本稿では、はじめに、「知的障害」と「介護福祉」との関係、そして介護福祉における自己決定支援の位置付けについて考察した。次に、これらを踏まえ、また、これまでの自己決定支援に関する研究調査結果も踏まえ、知的障害のある人の自己決定支援が求められる背景、「自己決定」の特徴、そして介護福祉分野における自己決定の支援方法について整理し、若干の考察を加えた。
3.「障害者ケアマネジメント実践の質に関する評価:相談支援専門員から見た利用者の生活状態の変化に関する研究」（査読付）	共	2018年2月5日	『ケアマネジメント学』日本ケアマネジメント学会第16号（pp.47-56）	本研究では、相談支援事業者によるケアマネジメント実践の質を評価するため、相談支援事業利用開始後の利用者の生活状態の変化に関する質問紙調査を行った。その結果、利用者の生活状態として心理・精神面や周囲との関係面が向上すること等が明らかとなった。一方で、今後の課題として、関連する地域づくり等が示された。 著者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
4.「社会に役立つやさしさを育む教育：本学の現状と課題」（査読付）	共	2012年3月20日	『大阪人間科学大学紀要』大阪人間科学大学研究会会 第11号（pp.137-145）	薫英学園創立80周年記念として開催されたシンポジウムの内容をまとめている。本稿では、応募者は、大学における福祉実習教育の観点から、現在の実習教育の現状を報告し、そして、今後大学が標榜する「『やさしさ』を培う」教育においてどのような点に留意する必要があるかについて提言を行っている。 著者：齊藤公男、辻井誠人、箱井英寿、與那嶺司
5.知的障害のある人の自己決定とその関連要因に関する文献的研究：環境要因も含めた自己決定モデルを活用した実証的研究の提案」（査読付）	単	2010年4月10日	『生活科学研究誌』大阪市立大学生活科学研究誌編集委員会 第9号（pp.171-188）	本研究では、知的障害のある人の自己決定に関する国内外の文献をレビューし、（1）なぜ知的障害のある人の自己決定およびその尊重が難しいのか、（2）その自己決定に関連する要因はどのようなものであるのか、そして、（3）その自己決定に関する実証的研究に関連した提案を行うことを目的とした。その結果、知的障害のある人の自己決定とその困難性、そして、その自己決定に関連する個人要因および環境要因を具体的に明らかにし、最終的に、知的障害のある人の自己決定を捉えるエコロジカルモデルを提案した。
6.「生活施設における知的障害のある人の	共	2010年2月15日	『ソーシャルワーク学会誌』日本	本研究では、知的障害のある人の自己決定能力の構造について因子分析を行い、その結果、「目標設定能力」「コミュニケーション能

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
自己決定と本人の自己決定能力との関連：担当支援職員から見た自己決定とその能力についての回答をもとに」（査読付）			ソーシャルワーク学会　第19巻1号（pp.43-56）	力」「課題遂行能力」そして「意思決定能力」の4因子が抽出された。また、個人要因を統制した上で、各自己決定領域とこれらの能力との関連について検討し、友人・知人の選択等に関する自己決定において、基礎的な自己決定能力である「コミュニケーション能力」と「意思決定能力」のみが関連を見せた等の結果が明らかとなり、これらの点について考察を行った。 著者：與那嶺司、岡田進一、白澤政和
7.「生活施設における支援環境と知的障害のある人の自己決定との関連：担当支援職員による質問紙に対する回答をもとに」（査読付）	共	2009年11月15日	『社会福祉学』日本社会福祉学会　第50巻3号（pp.41-53）	本研究では、知的障害のある人の自己決定に対する支援環境の構造を明らかにし、そして個人要因を統制したうえで、その支援環境と自己決定との関連について検討することを目的とした。そこで、施設等で生活する知的障害のある人を対象とした郵送調査を実施し、分析した。支援環境の構造については、因子分析を、そして、支援環境と自己決定との関連を検討するために重回帰分析を行った。その結果、「本人の意思の尊重」は、すべての自己決定領域に、「役割モデル」と「地域とのつながり」についても、ほとんどの領域に関連をみせた。一方、「スタッフ教育・訓練」は、どの自己決定領域にも関連をみせなかったこと等も明らかとなった。 著者：與那嶺司、岡田進一、白澤政和
8.「施設規模と知的障害のある人の自己決定との関連：担当支援職員による質問紙に対する回答をもとに」（査読付）		2009年4月10日	『介護福祉学』日本介護福祉学会　第16巻1号（pp.18-28）	本研究の目的は、わが国における施設規模と知的障害のある人の自己決定との関連を検討することである。 重回帰分析の結果、自己決定のすべての領域に施設規模が影響を及ぼしていることが明らかとなった。また、統制変数である障害程度区分および年齢についても、ほとんどの自己決定領域に対して関連を示していた。ただし、「友人・知人の選択および共有時間に関する自己決定」領域については、本重回帰モデルでは説明率が低かったため、より高い妥当性をもつモデル構築の必要性が示唆された。これらの知見をもとに、個別的ニーズへの対応および友人・知人との接触機会の提供を、今後の自己決定支援における課題として提言した。 著者：與那嶺司、岡田進一、白澤政和
9.「生活施設における知的障害のある人の自己決定の構造：担当支援職員による質問紙に対する回答をもとに」（査読付）	共	2009年2月10日	『社会福祉学』日本社会福祉学会　第49巻4号（pp.27-39）	本研究においては、知的障害のある人の自己決定の構造および特徴について明らかにし、その自己決定の各領域と本人の基本属性との関連について検討することを目的とした。自己決定の構造については、因子分析の結果、5領域で構成されることが明らかとなった。また、自己決定と本人の基本属性との関連を検討するために相関分析を行った結果、年齢はほとんどの領域との間において、また、障害程度区分についてはすべての領域において正の相関を示した。一方、在所年数については日常生活活動および知人や友人の往来に関する領域において負の相関がみられた。 著者：與那嶺司、岡田進一、白澤政和
10.「HCBSプログラムにおける発達障害ケアマネジメント：ウエストバージニア州とテネシー州における発達障害ケアマネジメントサービス提供機関に対するインタビューをもとに」（査読付）	単	2005年9月10日	『ケアマネジメント学』日本ケアマネジメント学会　第4号（pp.105-116）	本稿においては、米国2州における発達障害ケアマネジメント機関へのインタビューと文献調査をもとに、まず、HCBSプログラムとそこで提供される発達障害ケアマネジメントについて概説し、それらのコスト抑制やコスト管理効果について考察した。加えて、2州の発達障害ケアマネジャーの特徴について述べ、発達障害ケアマネジャーが、専門職というよりも準専門職として位置づけられている点を指摘した。そこで、今後発達障害ケアマネジャーが専門職として確立していくために、いくつかの課題を提示した。
11.「米国における知的障害とソーシャルワークの関係：その関係の歴史的な変遷とソーシャルワーカーの役割の検証」	単	2004年3月10日	『関西福祉大学研究紀要』関西福祉大学研究会　第7号（pp.205-226）	本稿では、米国における知的障害とソーシャルワークの関係についての歴史的な変化をレビューし、そして、それぞれの時代に限定されたソーシャルワーカーの役割を明確にした。それを踏まえて、ケアマネジャーという役割を、日本における今後のソーシャルワーカーが担う場合の問題点を提示した。
12.「ソーシャルワーク実践評価におけるシングル・システム・デザインとその諸課	単	2003年3月15日	『関西福祉大学研究紀要』関西福祉大学研究会　第6号（pp.137-157）	本稿において、まず、米国のソーシャルワークにおけるシングル・システム・デザイン（以降、SSD）の要請条件として、ケースワークの効果測定に関する議論を概観した。また、それを踏まえて、SSDと社会福祉分野においてその方法を利用する上での諸課題を整理し

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
題」				た。また、日本の社会福祉分野におけるSSDの今後の可能性を考察した。
13.「米国における知的障害ケアマネジメントーウエストバージニア州の発達障害ケースマネージメント活動を中心にー」	単	2002年3月15日	『関西福祉大学研究紀要』関西福祉大学研究会　第4号（pp.51-99）	本稿において、まず、米国における発達障害ケースマネージメントの成立事情を考察し、米国とくにウエストバージニア州における発達障害ケースマネージメント活動および課題を分析的に説明した。そして、2003年度の支援費制度の開始にともなって本格化する知的障害ケアマネジメントの日本における今後の課題を提示した。
その他				
1．学会ゲストスピーカー				
1.「量的調査研究ワークショップ」コメンテーター	単	2012年10月20日	『第60回日本社会福祉学会大会・若手研究者のためのワークショップ』日本社会福祉学会（東京都新宿区）主催	関西学院大学・西宮上ヶ原キャンパスにおいて、日本社会福祉学会が開催した若手研究者のためのワークショップにおいて、コメンテーターを務めた。大学院生が作成した研究計画書をもとに、主に、その計画書に含まれる量的調査について改善点とその方法についてアドバイスおよび意見交換等を行った。
2．学会発表				
1.「相談支援専門員の職場環境、仕事に対する考え方、バーンアウトについて」		2015年6月13日	日本ケアマネジメント学会　第14回研究大会（神奈川県横浜市）	本研究では、相談支援専門員の職場環境、仕事に対する考え方、そしてバーンアウトについて検証を行った。その結果、調査対象となった相談支援専門員が、職場環境等がよい状況にあると考え、仕事量や収入以外ではその仕事を肯定的に捉えていたが、一部の仕事においてはバーンアウト傾向が見られることが明らかとなった。 発表者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
2.「障害者ケアマネジメントがサービス利用者の生活の質の変化に影響を及ぼす要因について」	共	2014年11月30日	日本社会福祉学会　第62回秋季大会（東京都新宿区）	本研究では、相談支援専門員の実践がサービス利用者の生活の質の変化にどのような影響を与え、またどのような要因が関係しているのかを明らかにするために面接調査を実施した。その結果、相談支援専門員や利用者要因に加え、環境要因もその変化に影響を与えており、また、これら3つの要因の相互作用により変化が生じている点も示唆された。 発表者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
3.「障害福祉分野の相談支援専門員の実践に対する評価視点に関する研究：事業所管理者への面接調査の分析から構造評価・プロセス評価に焦点をあてて」	共	2014年7月20日	日本ケアマネジメント学会　第13回研究大会（新潟県新潟市）	相談支援事業の構造評価およびプロセス評価において、相談支援事業所の管理者が重視する視点を明らかにするために、聞き取り調査を実施した。その結果、構造評価として「適切な知識および価値観を持った人材の配置」等が、アウトカム・モニタリングとして「利用者次元の評価」等が抽出された。 発表者：清水由香、橋本卓也、與那嶺司、樽井康彦、森地徹、小澤温、白澤政和
4.「相談支援専門員の実践に対するアウトカム評価の視点：事業所管理者へのインタビュー調査を通して」	共	2014年7月20日	日本ケアマネジメント学会　第13回研究大会（新潟県新潟市）	相談支援事業所の管理者が、相談支援事業のアウトカム評価において重視している視点を明らかにするために、インタビュー調査を実施した。その調査結果から、管理者は「利用者自身のポジティブな変化」「利用者の生活の質の変化」「支援内容等に対する利用者自身の満足度」等をアウトカム評価の基準として重視していることが明らかとなった。 発表者：橋本卓也、清水由香、與那嶺司、樽井康彦、森地徹、小澤温、白澤政和
5.「相談支援専門員の実践がサービス利用者に及ぼす経時的効果の検証について」	共	2014年7月19日	日本ケアマネジメント学会　第13回研究大会（新潟県新潟市）	相談支援専門員の実践が利用者に及ぼす影響を、パネル調査により経時的に検証した。その結果、経時的な変化について相談支援専門員と利用者の双方からマイナスの評価が示された。この結果を踏まえ、今後、その背景要因を明確にする必要があると考えられる。 発表者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
6.「相談支援事業における利用者のニーズ把握の実態に関する検証について：障害	共	2013年9月22日	日本社会福祉学会　第61回秋季大会（北海道札幌市）	相談支援専門員の実践に関する調査をもとに、相談支援専門員と利用者の評価を比較し、それぞれが必要と感じる支援の領域とその差異を明らかにした。また、これらの結果をもとに、「利用者の適切なニーズ把握」と「サービス提供を通したニーズ充足」の必要性に

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
者ケアマネジメントの手法開発を通して」				ついて提言した。 発表者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
7.「障害福祉領域のケアマネジメント効果評価に関する研究：介護保険利用者との比較から」	共	2013年6月6日	日本ケアマネジメント学会　第12回大会（大阪府大阪市）	発表者らが調査を実施した障害福祉領域におけるケアマネジメント実践の効果評価と既存の介護保険法の利用者の評価結果を比較し分析した。両群の結果に異なる点があり、それらの差は「利用者の特性やライフコース」や「サービス提供システムや社会資源環境」等に由来することが明らかとなった。 発表者：清水由香、森地徹、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、小澤温、白澤政和
8.「障害者のQOLを高める構成要素について：相談支援専門員の実践に焦点をあてて」	共	2013年6月5日	日本ケアマネジメント学会　第12回大会（大阪府大阪市）	相談支援専門員が重視している利用者のQOL要素を明らかにするために、インタビュー調査を行った。本発表では、その分析結果について報告した。一定の経験を積んだ相談支援専門員は、「心理・精神面」を最終的な目標としながら、QOL要素間の交互的作用の働きを意識しながら実践を行っていることが明らかとなった。 発表者：橋本卓也、與那嶺司、樽井康彦、森地徹、小澤温、白澤政和他2名
9.「相談支援専門員の実践がサービス利用者に及ぼす効果の検証について」	共	2013年6月5日	日本ケアマネジメント学会　第12回大会（大阪府大阪市）	相談支援専門員の実践がサービス利用者に及ぼす効果について、郵送調査の分析結果を報告した。相談支援の利用により、適切な対応とサービスコーディネートが行われ、利用者自身や周囲との関係が安定し、また、地域で暮らすためのネットワークが形作られていることが明らかとなった。 発表者：森地徹、小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、清水由香、白澤政和
３．総説				
1.「もうひとつの子ども虐待：米国において提起される「きょうだい間虐待（Sibling Abuse）」問題」（査読付）	単	2005年8月15日	『子どもの虐待とネグレクト』日本子どもの虐待防止学会　第7巻2号（pp.230-237）	本稿では、はじめに、「きょうだい間虐待」の3つのタイプ（性的虐待、身体的虐待、心理的虐待）とその現状を概観した。そして、きょうだいへの親のかかわり方に注目し、きょうだい間虐待の特徴をいくつか提示した。また、包括的ではないが、既存の児童虐待やインセストに関する調査をもとに、日本におけるきょうだい間虐待について若干の考察を加え、最後に、きょうだい間虐待における課題を提示した。
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.シリーズ意思決定支援を考える3：番外編・社会福祉と偶然性」		2024年9月	「コミュニティデザイン Journal」（社会福祉法人陽気会・神戸北コミュニティデザインLab発行）	本稿では、意思決定支援において度々トピックとなる偶然性、あるいは「運」について解説し、その偶然性を担保する仕組みとしての社会福祉の存在意義について喚起した。
2.「シリーズ意思決定支援を考える2：『悩み』続ける意思決定支援」	単	2024年8月発行	「コミュニティデザイン Journal」（社会福祉法人陽気会・神戸北コミュニティデザインLab発行）	本稿では、意思決定支援とその４つのポイントについて解説し、最後に、意思決定支援が「悩み」続ける支援であることの意味とその意義を論じた。
3.「シリーズ意思決定支援を考える1：『自己決定』から『意思決定』へ」	単	2024年7月発行	「コミュニティデザイン Journal」（社会福祉法人陽気会・神戸北コミュニティデザインLab発行）	本稿では、知的障害のある人の自己決定という考え方の広がりや「自己決定支援」から「意思決定支援」へ変遷する過程を振り返り、その過程で失われる「自己」の主体性について論じた。
4.『令和 3 年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 障害者政策総合研究事業　同行援護の担い手となる支援者の 養成のため	共	2022年3月25日	国立障害者リハビリテーションセンター（研究代表：森 浩一）	本研究では、関係する先行研究や他の支援制度の状況等を学術的観点で分析した上で、同行援護事業 者の調査等を通して、同行援護従業者養成研修が現状で十分かどうかを確認し、それを踏まえ、質的向上のための新カリキュラム案を作成した。また、盲ろう者向け通訳・介助員の同行援護従業者養成研修受講時の免除科目設定のための基礎資料を検討した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
の研究』				担当個所：「養成研修に必要な技術的要件および他の従業者養成スキーム等に関する研究 」（pp.14-37） 著者：森浩一、與那嶺司、中野泰志、前田晃秀
5.「（講演録）障害のある人の自己決定とその支え方」	単	2017年3月17日	『女性学評論』 神戸女学院大学女性学インスティチユート 第31巻（pp.171-202）	本講演録では、これまでの研究調査結果をもとに、障害のある人の自己決定、自己決定支援の難しさ、そして、自己決定の構成要素とそれに影響を与える要因について検討している。また、それらをもとに、障害のある人への自己決定支援の方法について、その具体的な方法も含め考察および提言を提示した。
6.『未来医療研究人材養成拠点形成事業（テーマB：リサーチマインドを持った総合診療医の養成）事業報告書』	共	2015年3月30日	長崎純心大学医療・福祉連携センター	本報告書は、文部科学省の「未来医療研究人材養成拠点形成事業」を受託した長崎純心大学医療・福祉連携センターによる2013年から2015年までの事業報告である。「地域包括ケア」体制の推進に関する理論的かつ実証的な調査研究として、全国調査、研究会・講演会、セミナー、視察等を行っており、それらの報告がなされている。 担当個所：「自己決定が困難なひとへの自己決定支援について」（pp.19-53） 著者：潮谷有二、宮野澄男、吉田麻衣、田中美喜子、與那嶺司、渡辺裕一他2名
7.『平成25年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究［A］）研究報告書 ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究　第四報』	共	2014年3月20日	桜美林大学大学院老年学研究科（研究代表：白澤政和）	本研究では、ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成を目的としている。そこで、最終年度において、スクールソーシャルワーカーを対象とした全国調査をもとにした効果的な援助要素の検討、障害者相談支援事業所の管理者へのインタビュー調査結果をもとにした評価の検討、そして、共働者・管理運営部門等へのインタビューおよび量的調査結果をもとにした退院支援マニュアルの作成を行った。これらの検討結果、そして作成したマニュアル案をここで報告している。 担当個所：「障害福祉分野におけるソーシャルワーク実践の構成要素に関する研究：ソーシャルワーク実践の評価指針の検討」（pp.1-74）を下記メンバーとともに執筆した。 著者：小澤温、清水由香、橋本卓也、樽井康彦、與那嶺司
8.『（公）社会福祉振興・試験センター助成金事業「社会福祉士養成新カリキュラムの教育実態の把握と、社会福祉士に必要な教育内容のあり方に関する研究事業」中間報告書』	共	2014年3月15日	社団法人日本社会福祉士養成校協会	新しい社会福祉士の教育カリキュラムについて、実態を把握しつつ教育内容の見直し等を検討するため、調査を実施した。ここでは、その調査結果の中間報告を行っている。具体的には、「指定科目担当班」「実習・演習科目担当班」「国家試験問題検証班」ごとに質問紙およびヒアリング調査を実施し、それぞれの分析結果を報告している。 担当個所：「社会福祉士養成に係る指定科目の教育実態に関する調査（pp.15-159）および「国家試験検証班　調査結果」（p.191-255）を下記メンバーとともに執筆した。 著者：潮谷有二、岡崎幸友、添田正揮、清水正美、樽井康彦、與那嶺司、渡辺裕一
9.『ジレンマ状況におけるソーシャルワーク実践の価値生成に関する実証的研究 研究報告書（平成22年-25年度　科学研究費補助金基盤研究［B］課題番号22330176）』	共	2014年3月12日	四天王寺大学人文社会学部人間福祉学科（研究代表：鳥海直美）	本研究では、障害児者の生活支援領域に限定し、多様な価値規範が実践現場にどのように浸透し、熟練者にとって自己決定を巡るジレンマがどのように経験されているかについて明らかにすることを目的とした。そこで、知的障害者入所施設、発達障害者を対象とする就労移行支援事業、触法障害者の地域生活支援等のフィールドにおける調査をもとに、ジレンマ状況にある熟練者の判断および支援過程、支援関係、意味付けと生成される価値等について考察した。 担当個所：「知的障害者入所施設の支援者が経験する自己決定支援を巡る価値とジレンマ」（pp.8-38）を樽井康彦と執筆した。 著者：鳥海直美、樽井康彦、與那嶺司、森口弘美、太田啓子、橋本卓也
10.「（講演録）自己決定が困難なひとへの自己決定支援について ： 知的障害のある人への自己決定研究からの学び」	単	2014年3月7日	『純心現代福祉研究』長崎純心大学現代福祉研究所 第18号（pp.97-131）	本講演録では、知的障害、認知症、精神障害等のある人の自己決定に関する研究調査のこれまでの結果をもとに、認知的な障害のある人の自己決定の特性、自己決定支援の難しさ、そして、自己決定の構成要素とそれに影響を与える要因について説明している。また、それらをもとに、障害等のある人への自己決定支援の方法について、その具体的な方法も含め提言を示した。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
11.『平成24年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究［A］）研究報告書 ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究　第三報』	共	2013年3月25日	桜美林大学大学院老年学研究科（研究代表：白澤政和）	本研究では、ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアルを構築するため、ソーシャルワークのプログラム自体の評価を行った。具体的には、これまで実施した質的および量的調査の結果をもとに、障害領域における相談支援業務、子ども領域におけるスクールソーシャルワーク業務、そして患者領域での退院支援業務について、総合的に分析し、その評価基準を明らかにした。 担当個所：「障害福祉分野におけるソーシャルワーク実践の構成要素に関する研究：ソーシャルワーク実践の評価指針の検討」（pp.1-30）を下記メンバーと共同で執筆した。 著者：與那嶺司、小澤温、橋本卓也、樽井康彦
12.『平成23年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究［A］）研究報告書 ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究　第二報』	共	2012年3月20日	桜美林大学大学院老年学研究科（研究代表：白澤政和）	本研究では、ソーシャルワークの評価方法を明らかにし、評価マニュアルを作成することを目的とする。本年度は、昨年度明らかとなったソーシャルワークの評価基準をもとに、障害者相談支援相談員、医療ソーシャルワーカー、特別養護老人ホーム・グループホーム職員、そして、スクールソーシャルワーカーを対象とし量的調査を実施し、評価の軸とそれをもとにした評価基準や内容を明らかにした。 担当個所：「障害福祉分野におけるソーシャルワーク実践の構成要素に関する研究」（pp.1-37）を下記メンバーと共同執筆した。 著者：小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、冨岡貴生、岡西博一
13.『平成23年度厚生労働科学研究費補助金・障害者対策研究事業（身体・知的等障害分野）　障害者のQOL評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究』		2012年3月13日	桜美林大学大学院老年学研究科（研究代表：白澤政和）	本研究では、障害者のQOLを高めるという観点から、障害者ケアマネジメントの手法および評価基準を開発することを目的としている。そこで、平成23年度は相談支援専門員にインタビュー調査を実施した。その結果、ケアマネジメント実践においては、まず、利用者の「心理・精神面」に、そして、それに関係する要因として「人間関係・社会関係」および「家族関係」に着目していた。これらの所見をふまえて、ケアマネジメントによる支援（とくに、エンパワメント）の在り方に関して整理を行った。 担当個所：「第3章　インタビュー調査の概要」（pp.3-6）および「第4章　インタビュー調査の結果および考察-1、相談支援専門員による援助実践におけるQOL要素の位置づけ」（pp.7-24）および「第5章　総括」（pp.65-67）を下記のメンバーと共同で執筆した。 著者：小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、中村房代
14.『薫英学園創立80周年・大阪人間科学大学開学10周年・大阪薫英女子短期大学開学45周年記念シンポジウム・人を想うやさしを社会に役立つ力へ　報告書』	共	2011年12月23日	大阪人間科学大学	本報告書は、大阪人間科学大学のスローガンである「社会に役立つやさしさを学ぶ」をテーマとして実施した基調講演、特別講演、そして、パネルディスカッションの記録である。ここでは、当該大学における諸年次教育、人材育成、そして実習教育等の観点から現状と課題が提示でされ、それをもとに下記著者らで討論を行った。 担当個所：「パネルディスカッション：人を想うやさしさを役立つ力へ：本学の現状と課題」における「報告：２．実習教育の観点から」および「討論」（pp.40-41および46-48の一部）を執筆している。 著者：加藤諦三、小林浩、齋藤公男、箱井英寿、辻井誠人、與那嶺司
15.『平成22年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究［A］）報告書　ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究　第一報』	共	2011年3月13日	大阪市立大学大学院生活科学研究科（研究代表：白澤政和）	本研究では、ソーシャルワークの評価方法を明らかにし、評価マニュアルを作成することを目的としている。当該年度は、各福祉領域において、障害者相談支援相談員、医療ソーシャルワーカー、そして、スクールソーシャルワーカー等を対象としインタビュー調査を実施した。それらの調査をもとに、ソーシャルワークを適切に評価する際に必要な構成要素を明らかにした。 担当個所：「身体・知的障害領域：障害福祉分野におけるソーシャルワーク実践の構成要素に関する研究」（pp.1-36）を下記メンバーと共同で執筆した。 著者：小澤温、與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、冨岡貴生、岡西博一
16.『2012～2017社会福祉士国家試験過去問解説集：全問完全解	共	2011年～2016年	中央法規出版	本著は、日本社会福祉士養成校協会および日本精神保健福祉士養成校協会が編集する社会福祉士国家試験の過去問解説集である。ここでは、当協会に加盟する大学等の教員が、各年の社会福祉士国家試

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
説』				験問題の解説を行っている。社会福祉士国家試験3回分の解説が掲載され、毎年、そして6年間執筆を担当した。
17.『2012～2017精神保健福祉士国家試験過去問解説集：全問完全解説』	共	2011年～2016年	中央法規出版	本著は、日本社会福祉士養成校協会および日本精神保健福祉士養成校協会が編集する精神保健福祉士国家試験の過去問解説集である。ここでは、当協会に加盟する大学等の教員が、各年の精神保健福祉士国家試験問題の解説を行っている。精神保健福祉士国家試験3回分の解説が掲載され、毎年、そして6年間執筆を担当した。
18.「受験ぜみなある：就労支援サービス・保健医療サービス、児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度」	単	2011年～2014年	福祉新聞社	福祉新聞の連載記事。本記事では、日本社会福祉士養成校協会からの依頼を受け、社会福祉士国家試験対策として、「就労支援サービス」「保健医療サービス」「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の過去問題についての解説を毎年、4年間執筆した。
６．研究費の取得状況				
1.（研究分担者）令和3年度厚生労働省 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）「同行援護の担い手となる支援者の養成のための研究」	共	2021年4月～2022年3月	厚生労働省 厚生労働行政推進調査事業費補助金（障害者政策総合研究事業）（課題番号：21GC2004　代表研究者：森浩一）	本研究では、先行研究や他制度の状況等を学術的に分析した上で、障害者総合支援法の「同行援護」において盲ろう者を含めた視覚障害者支援に必要な技術的要件を整理し、効果的・効率的な養成カリキュラム案を作成するとともに、盲ろう者向け通訳・介助員が同行援護従業者資格を取得するにあたっての免除科目案を設定することを目的としている。現在、この目的に沿って、調査研究の詳細を検討し実施している。 分担研究者：中野泰志、前田晃秀、與那嶺司
2.（代表研究者）平成23年度～平成25年度学術振興会科学研究費補助金・若手研究（B）「知的障害のある人の自己決定における支援者および家族による適切な関わりに関する研究」	単	2011年4月～2013年3月	学術振興会科学研究費補助金（課題番号：23730559 代表研究者：與那嶺司）	本研究では、まず、平成19年度～平成21年度の研究成果を踏まえ、知的障害のある人の自己決定において、パターナリズムの弊害を最小限に抑えるために、他者、とくに身近な関係が想定される支援者および家族がどのように関わり、そして、今後どのように関与していくことが、知的障害のある人の自己決定を現実的にサポートする上で適切であるのかについて明らかにすることを目的とした。また、これらの結果をもとに、最終的には「知的障害のある人の自己決定への関わり方に関するガイドライン（仮称）」を提示する。
3.（研究協力者）平成23年度厚生労働科学研究費補助金・障害者対策研究事業（身体・知的等障害分野）「障害者のQOL評価に基づくケアマネジメント手法開発の研究」	共	2011年4月～2013年3月	厚生労働科学研究費補助金・障害者対策研究事業（身体・知的等障害分野）（課題番号：H23-身体・知的-一般-006　代表研究者：白澤政和）	本研究の目的は、障害のある人のQOLを高めるという観点から、障害分野のケアマネジメント手法を開発し、そうしたケアマネジメントの能力を有しているケアマネジメント従事者の評価基準を提示することにある。そのため、高齢分野でのQOLをもとにしたケアマネジメント手法を障害者分野に援用し、保健・医療・福祉・介護サービス利用を効果的に支援し、QOLを高めるケアマネジメント手法を開発する。そして個々のケアマネジメント実践を評価するベンチマークを開発する。 分担研究者：小澤温 研究協力者：與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦、冨岡貴生、岡西博一、中村房代
4.（連携研究者）平成22年度～平成25年度学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（A）「ソーシャルワークの評価方法と評価マニュアル作成に関する研究」	共	2010年4月～2014年3月	学術振興会科学研究費補助金（課題番号：22243040 代表研究者：白澤政和）	本研究の目的は、ソーシャルワーク実践の評価を実施し、評価マニュアルを開発することであり、また、ソーシャルワークが効果ある支援であることを実証することにより、最終的に社会的承認を得ることにある。具体的には、ソーシャルワークの事例レベルの評価とソーシャルワークを主眼にするプログラムレベルの評価を、ニード・アセスメントを基軸にして、構造評価、プロセス評価、アウトカム評価、効率評価といった複数の評価手法を活用し実施する。これらのプロセスを、高齢分野、障害分野、児童分野、そして、医療分野の各分野で、それぞれの状況を踏まえつつ進める。 分担研究者：岡田進一、清水由香 連携研究者：山野則子、大島巌、小澤温、小原眞知子、與那嶺司
5.（分担研究者）平成22年度～平成25年度学術振興会科学研究費補助金・基盤研究	共	2010年4月～2013年3月	学術振興会科学研究費補助金（課題番号：22330176 代表研究者　鳥海	本研究の目的は、障害者・児の生活支援にかかわる熟練ソーシャルワーカーの経験に焦点をあて、自己決定を巡るジレンマ状況における判断過程および支援過程を分析することによって、実践現場に生成されるソーシャルワーク実践の価値を実証的に明らかにすること

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
6．研究費の取得状況				
（B）「ジレンマ状況におけるソーシャルワーク実践の価値生成に関する実証的研究」			直美）	である。まずは、多様な価値規範が実践現場にどのように浸透し、熟練者にとって自己決定を巡るジレンマがどのように経験されているのかを明らかにする。次に、ジレンマ状況にある熟練者の主体性や倫理的感受性の発現の仕方に着目しながら、その判断過程および支援過程を明らかにし、ジレンマの解決に向けて創出される支援関係や支援活動を把握する。さらに、それらが本人にとってどのように意味づけられ、実践現場にどのような価値をもたらしているのかを検討する。 分担研究者：與那嶺司、橋本卓也、樽井康彦
6.（代表研究者）平成19年度～21年度学術振興会科学研究費補助金・若手研究（B）「知的障害のある人による自己決定を支援するケアマネジメント実践モデルに関する研究」	単	2007年4月～2010年3月	学術振興会科学研究費補助金（課題番号：19730374 代表研究者：與那嶺司）	本研究においては、知的障害のある人による自己決定を支援するケアマネジメントモデルの構築を最終目的とし、以下の3点を明らかにした。（1）生活施設における知的障害のある人の自己決定に関連する要因を明らかにした。（2）（1）で検討された自己決定に関連する要因が、わが国の知的障害のある人の地域および施設生活において、どの程度存在するのかを明らかにした。そして、（3）知的障害のある人による自己決定を支援するケアマネジメントを含めた援助実践モデルの可能性を提言した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2024年10月～現在	西宮市地域自立支援協議会・委員
2.2024年10月～現在	大阪府障がい者自立支援協議会就労支援部会・部会長
3.2024年10月～現在	大阪府障がい者自立支援協議会・委員
4.2024年6月～現在	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟Social Work Educational Policyプロジェクト委員
5.2024年4月1日～2025年3月31日	文部科学省　設置・学校法人審議会（大学設置分科会）専門委員（社会福祉学専門委員）
6.2021年4月～現在	神戸市地域自立支援協議会・委員
7.2021年4月～現在	大阪市障がい者施策推進協議会・地域自立支援協議部会委員
8.2021年4月～現在	神戸市障害者施策推進協議会・委員
9.2020年4月～2024年3月	尼崎市自立支援協議会・委員
10.2019年5月～2021年4月	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟・近畿ブロック運営委員長
11.2018年5月～2023年4月	公益財団法人社会福祉振興・試験センター・社会福祉士国家試験委員会委員
12.2018年4月～現在	社会福祉法人産経新聞社厚生事業団・「福祉相談くすのき」外部スーパーバイザー
13.2017年4月～2022年3月	西宮市社会福祉審議会・会長職務代理
14.2016年6月～現在	認定社会福祉士認証・認定機構認定社会福祉士認定委員会・副委員長
15.2016年6月～2019年5月	大阪府障がい者差別解消協議会・委員
16.2015年4月～2024年9月	大阪府工賃向上計画の推進に関する専門委員会・委員長
17.2014年4月～現在	社会福祉法人ふらっぷ・監事
18.2014年4月～現在	社会福祉法人くすのき福祉会・評議員
19.2013年4月～2019年3月	豊中市健康福祉審議会・委員
20.2012年4月～2014年3月	社会福祉法人摂津市社会福祉事業団・評議員
21.2012年4月～2014年3月	日本ケアマネジメント学会・第12回大会（大阪大会）事務局長
22.2011年10月～2018年3月	社会福祉法人産経新聞社厚生事業団・評議員
23.2011年4月～2017年3月	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会・国家試験合格支援委員
24.2011年4月～2013年3月	一般社団法人日本社会福祉士養成校協会・事務局参事
25.2009年4月～2012年3月	日本介護福祉学会
26.2008年4月～現在	日本ソーシャルワーク学会
27.2007年4月～2018年3月	NPO法人自立生活センターFlatきた運営委員会・委員
28.2006年9月～現在	日本ケアマネジメント学会
29.2006年4月～現在	日本障害学会
30.2005年4月～2010年3月	社会福祉法人豊中親和会・理事兼評議員
31.2004年4月～現在	NPO法人おおさか行動する障害者応援センター・副代表
32.2002年4月～現在	日本社会福祉学会
33.2001年9月～現在	日本発達障害学会 入会
34.2000年5月～2018年3月	アメリカ知的・発達障害学会（American Association on Intellectual and Developmental Disability：AAIDD）
35.1999年5月～現在	全米ソーシャルワーカー協会（National Association of Social Workers:NASW）